

# 保育者養成校における音楽教育 のレパートリーを増やすために 「子どもの歌」

著者	東 真美子
雑誌名	宮崎学園短期大学紀要
号	10
ページ	161-174
発行年	2018
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1106/00000684/">http://id.nii.ac.jp/1106/00000684/</a>

# 保育者養成校における音楽教育 —「子どもの歌」のレパートリーを増やすために—

東 真美子

## Music education in early childhood education course —For expanding the repertoire of “Children songs”—

Mamiko HIGASHI

キーワード：ピアノ初心者 学生の声域 「子どもの歌」 弾き歌いの楽譜

### はじめに

筆者は本学において「器楽Ⅰ・Ⅱ」、「あそびと音楽Ⅰ・Ⅱ」の授業を担当している。そのうち、「器楽Ⅱ」以外は1年次の履修科目となっており、内容としては保育者として必要な音楽活動の入門である。音楽活動は保育現場において日常的に使われており、園によってその多少はあったとしても、保育者として避けることはできないものであろう。しかしながら、図1に示すようにピアノ初心者率（全くない～1年未満）は年々増加（H.26年度：38.3%→H.29年度：49.1%）しており、音楽活動に自信が持てない学生も少なくないと感じている。保育者自身の音楽活動に自信が持てていない場合に、自身の保育に対する満足度が低下する（児嶋・古本，2015）という指摘を踏まえると、音楽活動に自信が持てないまま本学を卒業し、保育現場に就職をすることは、その後の学生の不適応を引き起こしうると考えられるため、重大な問題であるといえよう。

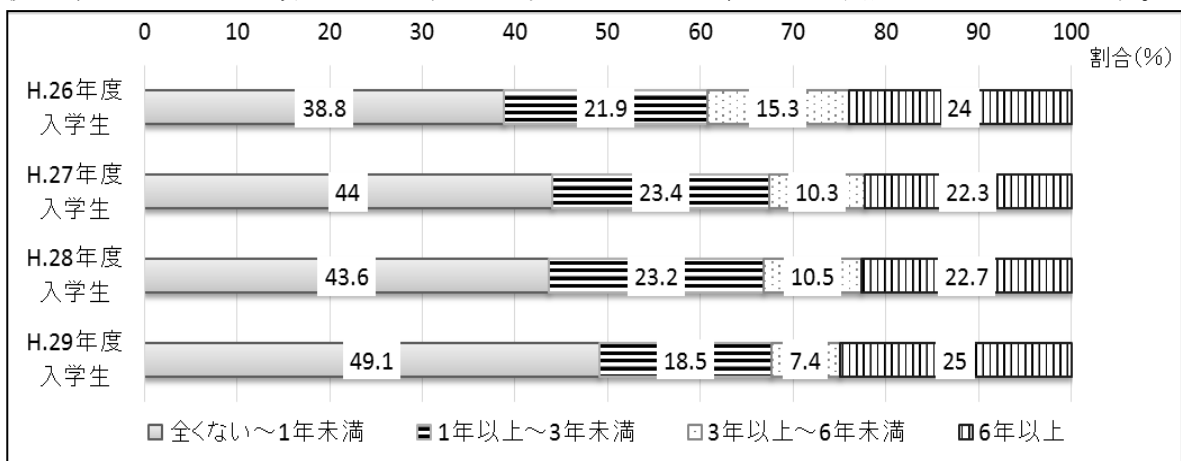


図1. 本学学生の入学前ピアノレッスン経験年数の割合

では、学生が自身の音楽活動に自信を持つためにはどのようなことが求められるであろうか。知識や技術ということはもちろんであるが、本学が短期大学であり、2年間の学修期間しかないことを鑑みて、ここではより多くの「子どもの歌」のレパートリーを持つことについて論じたい。保育現場では毎日多くの「子どもの歌」が歌われている現状を踏まえると、多くのレパートリーを持つことは必要なことであり、それが自信にも繋がるであろう。

しかしながら、ピアノ初心者にとっては、1曲の「子どもの歌」の弾き歌いをマスターするだけでも大変なことであり、レパートリーを増やすというのは、やはり2年間という短い期間では

非常に困難なことであろう。また、弾き歌いは、ピアノを弾くということだけではなく、「歌」そのものもある程度のレベル以上で歌うことが必要であるが、歌うことに困難を感じている学生も多い。実際に筆者が担当している学生も「子どもの歌」のレパートリーを増やすことには苦勞している様子が見える。

## I. 学生にとっての弾き歌いの難しさ

上記の本学の実情を踏まえると、何かしらの対策を講じる必要があると考えられる。そこで、まず筆者なりに、本学学生にとっての弾き歌いの難しさの原因について考えてみた。

### 1. 歌う音域と学生の胸声発声による声域の相違

保育現場での「歌」を習得させるにおいてまず考えるのは、胸声（話す声）で歌わせるか、頭声（裏声）で歌わせるか、ということである。小学校から高校にかけて、発表会や合唱コンクールなどが行われるが、その時の歌声は頭声発声が多い。それらは、いわゆる「聴かせるための美しい声」として歌っているからであろう。しかし、保育現場においては、頭声発声の特徴である弱く柔らかな声は、子どもたちの声にかき消されてしまい、「子どもと一緒に歌い、子どもの歌を牽引する声」としてベストではないと考えられる。そのことは学生も経験的に知っており、「子どもの歌」を胸声発声で歌おうとしているが、話す声の音域はそんなに広くはなく、どうしても頭声（裏声）を含まざるを得なくなる。音域が広い曲で、とりわけ高い音域が使用されている曲であると、胸声発声と頭声発声の切り替えが上手くいかず声が裏返ったりするため、高い声が出ない、歌いづらいと感じる要因となる。では、NHK の子ども向け番組で子どもの歌を歌っている歌のお姉さんやお兄さんはどのように歌っているのだろうか。その歌を聴いてみると、頭声的発声を用いているようである。頭声的発声とは、頭声の要素を取り入れた胸声発声のことで、声楽の専門用語で表すとベルカント唱法と呼ばれるものである。しかし、声楽の専門家ではない学生にとって短期間でのベルカント唱法の習得は難しいと思われる。よって筆者は、胸声発声で元氣よく歌わせることに重きを置いて指導している。

### 2. 調号がある曲に苦手意識がある

ハ長調とイ短調以外の曲には調号があり、調号の付いた音を弾く場合、ピアノの黒鍵を打鍵しなければならない。ピアノ初心者の学生にとって、一段奥まった、少し高い場所にある黒鍵に指を持っていくことが慣れない作業であることと、 $\sharp$ と $\flat$ の示す位置を瞬時に判断することが難しいことが、苦手意識を生んでいると考えられる。しかし、磯部（2014）が指摘するように、保育現場でよく歌われている「生活の歌」や「季節の歌」には、C-dur（ハ長調：調号なし）、F-dur（ヘ長調：調号 B 音）、G-dur（ト長調：調号 Fis 音）、D-dur（ニ長調：調号 Fis 音・Cis 音）が多く含まれているのが現状である。ピアノ初心者の学生は、調号の付く音符に丸を付けたり、臨時記号のように $\sharp$ や $\flat$ を書き込んだりしながら練習しているものの、止まらずに弾けるようになるまでの期間が長く、非常に苦勞している。

### 3. 左手でピアノを弾くことが難しい

左手の演奏部分は、おおかた低音部譜表の読譜を必要とし、高音部譜表の読譜でさえ精一杯のピアノ初心者は、まずそこから躓きを覚えるであろう。また、日本人のほとんどが利き手を右手として生活しており、普段から細かい作業をするときには右手指を使用することから、左

手指のコントロールが苦手であると考えられる。特に指番号 3・4・5 番の独立運動は、ピアノ初心者にとって長期のトレーニングを必要とする。そのような中において、低音部譜表の使用音域が広く作られていた場合、指寄せや指くぐりからのポジション移動、および指広げや同音での指替えなどの、様々な手指移動テクニックを要求されることになる。ピアノ初心者用の楽譜と謳っている楽譜であっても、音楽的な流れを重視した編曲になると、この手指移動テクニックを用いないと演奏できないこともある。そのような楽譜で練習すると、ピアノ初心者の学生にとっては、止まらずに弾けるようになるまでのハードルが高すぎてしまい、伴奏を付けることを途中で断念したり、その曲の練習自体をやめてしまったりすることもある。

これ以外にも様々なことが考えられるであろうが、本論ではこの 3 つに焦点をあて、検証および実践の報告を行う。

## II. 学生の胸声発声の声域

まず、「I - 1. 歌う音域と学生の胸声発声による声域の相違」について考える。

表 1.

平成 27 年 7 月実施

曲名	曲の 音域幅	開始音	教材曲集 の調性	演奏 人数	学生の歌った 調性（人数）	開始音	学生が歌った音域
カレーライスの うた	完全 5 度	第 1 音	ヘ長調	1	ニ長調（1）	1 点ニ	1 点ニ～1 点イ
グーチョキパーで なにつくろう	長 9 度	第 1 音	ヘ長調	14	変ロ長調（2）	変ロ	ヘ～1 点ト
					ロ長調（3）	ロ	嬰ヘ～1 点嬰ト
					ハ長調（9）	1 点ハ	ト～1 点イ
トントントントン ひげじいさん	短 7 度	第 1 音	ハ長調	3	ロ長調（1）	ロ	嬰ト～1 点嬰ヘ
					ハ長調（2）	1 点ハ	イ～1 点ト
ピクニック	完全 8 度	第 1 音	ハ長調	9	変ロ長調（3）	変ロ	ヘ～1 点ヘ
					ハ長調（4）	1 点ハ	ト～1 点ト
					変ニ長調（2）	1 点変ニ	変イ～1 点変イ
キャベツの中から	完全 8 度	第 3 音	ヘ長調	16	ロ長調（1）	1 点嬰ニ	嬰ヘ～1 点嬰ヘ
					ハ長調（12）	1 点ホ	ト～1 点ト
					ニ長調（3）	1 点嬰ヘ	イ～1 点イ
さかながはねて	完全 5 度	第 3 音	ハ長調	2	変ロ長調（1）	1 点ニ	変ロ～1 点ヘ
					ハ長調（1）	1 点ホ	1 点ハ～1 点ト
むすんでひらいて	長 6 度	第 3 音	ハ長調	11	イ長調（1）	1 点嬰ハ	イ～1 点嬰ヘ
					変ロ長調（2）	1 点ニ	変ロ～1 点ト
					ロ長調（3）	1 点嬰ニ	ロ～1 点嬰ト
					ハ長調（5）	1 点ホ	1 点ハ～1 点イ
たまご	完全 8 度	第 5 音	ハ長調	3	ヘ長調（1）	1 点ハ	ヘ～1 点ヘ
					ト長調（2）	1 点ニ	ト～1 点ト
やまごやいっけん	短 7 度	下方 第 5 音	ヘ長調	5	変ニ長調（1）	変イ	変イ～1 点変ト
					ニ長調（4）	イ	イ～1 点ト

筆者が担当する「あそびと音楽Ⅰ」の試験において、学生は無伴奏で手遊び歌を行うが、平等な採点のために、学生には了承を得たうえで、その手遊び歌の様子をビデオ撮影している。その素材を使って、学生の胸声発声による自然発生的な声域、すなわち調性に制限がない状態で歌った時の音域について調べた（表1）。表1に示されている通り、教材曲集で示されている調性と学生が歌った調性にズレが生じている。たとえば、「グーチョキパーでなにつくろう」は教材曲集ではヘ長調であるが、その曲を歌った14名中、2名は変ロ長調（ヘ長調より完全5度下）、3名はロ長調（ヘ長調より減5度下）、9名はハ長調（ヘ長調より完全4度下）で歌っていた。このことから、「グーチョキパーでなにつくろう」は、教材曲集の中で使用されている調が学生の歌いやすい音域に比べて高めに設定されていることがわかる。なお、「グーチョキパーでなにつくろう」と「むすんでひらいて」は、弾き歌いの教材としても使用されるものである。保育現場で使用されるすべての曲とはいえないまでも、弾き歌いの曲の音域が学生の声域にあっていない曲が他にも存在する可能性も考えられよう。

もちろん、一番重要視されるのはその曲の音域が幼児の声域に合っていることであろう。保育者の声域に合っている、幼児の声域に合っていないければそれは適切ではないといえよう。しかしながら、吉富・三村（2012）の保育中の幼児の歌唱の実態調査によると、現在使用されている教材曲集の調で歌おうとすると、幼児の大半は高音域を出すことができていないことが明らかにされている。つまり、水崎（2012）が述べている通り、「教材曲集に入っているからすべて子どもは歌える」と安易に考えるべきではないであろう。保育者を目指す学生にとっても、そして幼児にとっても、教材曲集に収録されている調で歌うことは自身の声域に合っていない可能性が考えられるのである。

### Ⅲ. 学生の歌いやすい楽曲とピアノ弾き歌いへの取り組みについて

#### 1. 学生が歌いやすいと思われる楽曲の作曲

上記の試みから、学生の胸声発声の声域が把握できたので、それに基づき、学生が歌いやすいと思われる音域の楽曲（楽曲A）を作曲した（図2）。

#### ハロウィン(A)

作詞:東真美子  
作曲:東真美子



図2. 楽曲A「ハロウィン (A)」

この曲「ハロウィン (A)」は、使用音域を「イ音～1点イ音」にするため、イ長調で作曲した（曲名の A は A-dur の A）。この音域は、表 1 の学生が歌った音域の最低音がヘ音であり、最高音が 1 点イ音であることと、曲想の面から 1 オクターヴの音域の幅を持たせたいということから設定したものである。しかし、学生の「I - 2. 調号がある曲に苦手意識がある」という点から考えると、この楽曲の弾き歌いは学生にとって難しいと感じられるであろう。そこで、音域的には歌いにくいと考えられるが調号がない調性である、ハ長調に移調した楽曲 B「ハロウィン (C)」も準備した（図 3）（曲名の C は C-dur の C）。なお、「I - 3. 左手でピアノを弾くことが難しい」を考慮して、左手首を左右に動かさずに同じポジションで弾ける伴奏をつけた。具体的には、「ハロウィン (A)」の低音部譜表の使用音域を「い音～ホ音」に固定し、左手の 5 本の指が 5 つの鍵盤の上に固定されるようにした。また、「ハロウィン (C)」も同様に、低音部譜表の使用音域を「ハ音～ト音」に固定した。この 2 曲を用いて、「I - 1. 歌う音域と学生の胸声発声による声域の相違」と「I - 2. 調号がある曲に苦手意識がある」について検証した。

### ハロウィン(C)

作詞:東真美子  
作曲:東真美子



図 3. 楽曲 B「ハロウィン (C)」

## 2. 調査

### (1) 調査方法

- 筆者が伴奏をし、学生が 2 曲を歌い比べ、歌いやすさを回答させる（I - 1. に対応）。
- 2 曲の譜面および左手の演奏の映像を提示し、どちらの楽曲のピアノ弾き歌いを練習したいか、およびその理由を回答させる（I - 2. に対応）。

### (2) 具体的な流れ

歌う曲順による影響（練習の効果等）がでる可能性を考慮し、2 パターン（グループ 1、グループ 2）を作成し、実行した。

#### 【グループ 1 の学生が行ったこと】

- ①質問紙（パターン 1）（付録 1 参照）を受け取る。
- ②楽曲 A を筆者の伴奏で歌う。

- ③質問紙（パターン 1）の問 1.『「ハロウィン（A）」の歌いやすさについて、当てはまる数字に丸を付けてください。』に回答する。
- ④楽曲 B を筆者の伴奏で歌う。
- ⑤質問紙（パターン 1）の問 2.『「ハロウィン（C）」の歌いやすさについて、当てはまる数字に丸を付けてください。』に回答する。
- ⑥楽曲 A を筆者の伴奏で歌う。
- ⑦楽曲 B を筆者の伴奏で歌う。
- ⑧質問紙（パターン 1）の問 3.『「ハロウィン（A）」と「ハロウィン（C）」を歌ってみて、どちらがより歌いやすいと感じましたか？どちらに○を付けてください。』『選択した方を、より歌いやすいと思った理由を教えてください。』に回答する。
- ⑨質問紙（パターン 1）に記載されている譜面を読み、楽曲 A のピアノ伴奏を聴く。
- ⑩質問紙（パターン 1）に記載されている譜面を読み、楽曲 B のピアノ伴奏を聴く。
- ⑪楽曲 A の左手の伴奏部分の映像をみながら、楽曲 A を聴く。
- ⑫楽曲 B の左手の伴奏部分の映像をみながら、楽曲 B を聴く。
- ⑬質問紙（パターン 1）の問 4.『「ハロウィン（A）」か「ハロウィン（C）」を、ピアノで弾き歌いする場合、どちらを練習しますか？どちらかに○を付けてください。』『選択した方を、練習しようと思った理由を教えてください。』に回答する。
- ⑭本学入学前のピアノレッスン経験の期間を回答する〔質問紙（パターン 1）〕。
- ⑮氏名等を記入する（任意）〔質問紙（パターン 1）〕。

【グループ 2 の学生が行ったこと】

- ①質問紙（パターン 2）（付録 2 参照）を受け取る。
- ②楽曲 B を筆者の伴奏で歌う。
- ③質問紙（パターン 2）の問 1.『「ハロウィン（C）」の歌いやすさについて、当てはまる数字に丸を付けてください。』に回答する。
- ④楽曲 A を筆者の伴奏で歌う。
- ⑤質問紙（パターン 2）の問 2.『「ハロウィン（A）」の歌いやすさについて、当てはまる数字に丸を付けてください。』に回答する。
- ⑥楽曲 B を筆者の伴奏で歌う。
- ⑦楽曲 A を筆者の伴奏で歌う。
- ⑧質問紙（パターン 2）の問 3.『「ハロウィン（C）」と「ハロウィン（A）」を歌ってみて、どちらがより歌いやすいと感じましたか？どちらに○を付けてください。』『選択した方を、より歌いやすいと思った理由を教えてください。』に回答する。
- ⑨質問紙（パターン 2）に記載されている譜面を読み、楽曲 B のピアノ伴奏を聴く。
- ⑩質問紙（パターン 1）に記載されている譜面を読み、楽曲 A のピアノ伴奏を聴く。
- ⑪楽曲 B の左手の伴奏部分の映像をみながら、楽曲 B を聴く。
- ⑫楽曲 A の左手の伴奏部分の映像をみながら、楽曲 A を聴く。
- ⑬質問紙（パターン 2）の問 4.『「ハロウィン（C）」か「ハロウィン（A）」を、ピアノで弾き歌いする場合、どちらを練習しますか？どちらかに○を付けてください。』『選択した方を、練習しようと思った理由を教えてください。』に回答する。
- ⑭本学入学前のピアノレッスン経験の期間を回答する〔質問紙（パターン 2）〕。
- ⑮氏名等を記入する（任意）〔質問紙（パターン 2）〕。

## (3) 調査時期

平成 29 年 10 月

## (4) 調査対象

調査対象は、本学保育科 1 年生 99 名（グループ 1：66 名・グループ 2：33 名）であった。グループの人数に偏りがあるが、各グループの人数を均等にしようとする授業の進行に支障が出てしまうため、教育的意義を優先し、このような配分となった。

## (5) 倫理的配慮

調査への協力は任意であること、調査への不参加による不利益は一切ないことを、事前に学生に伝えた。

## 3. 結果と考察

## (1) 楽曲の歌いやすさについて

## ①各楽曲の歌いやすさ得点（問 1・問 2）

各楽曲の歌いやすさを、「1. とても歌いにくい（1 点に換算）、2. 歌いにくい（2 点に換算）、3. やや歌いやすい（3 点に換算）、4. 歌いやすい（4 点に換算）、5. とても歌いやすい（5 点に換算）」で回答させた。この回答を歌いやすさ得点とし、各楽曲の平均値を算出した。楽曲 A の歌いやすさ得点の平均値は 4.18 点、楽曲 B の歌いやすさ得点の平均値は 3.88 点となり、楽曲 A の歌いやすさ得点の平均値の方が高いという結果になった。

## ②楽曲 A と楽曲 B の歌いやすさの比較（問 3）

楽曲 A と楽曲 B のどちらが歌いやすいかを学生に尋ねたところ、楽曲 A と回答した学生は 63 名、楽曲 B と回答した学生は 36 名であり、楽曲 A と回答した学生の方が多かった。

以上の結果から、筆者の予想通り楽曲 A の方が歌いやすいということが示された。楽曲 A が学生の声域に合っていることが理由として考えられよう。より歌いやすいと思った理由（問 3 自由記述）をみると、楽曲 A では「音が低かったので歌いやすかった」や「音が低くて無理しなくても声が出た」などの音の高さに関する回答が多く（53 名）、その他、「声の高さが合っていたことと、ハロウィンの歌なので高くない方が良いと思ったから。（3 名）」や「高いと歌いにくいので、低いほうで歌えると楽しいと思う。（2 名）」などの回答がみられた。楽曲 B では「音の高さが合っていた」や「高いほうが自分出しやすいから」などの音の高さに関する回答が多く（15 名）、その他、「明るいほうが、子どもたちが歌い易いと思ったから。（5 名）」や「高いほうが楽しそうで良いと思ったから（3 名）」というような回答がみられた。やはり、歌いやすさには自身の声域への合致が重要な要因であることが考えられる。

## ③ピアノ弾き歌いへの取り組み（問 4・問 5）

楽曲 A と楽曲 B をピアノで弾き歌いをする場合に、どちらを練習するかを尋ねた結果、楽曲 A と回答した学生は 31 名、楽曲 B と回答した学生は 68 名であり、楽曲 B と回答した学生の方が多かった。以上の結果から、楽曲 B の方がピアノ弾き歌いに取り組みたいということが示された。楽曲 A の方が歌いやすいと回答した学生が多かったのに関わらず、楽曲 B の弾き歌いに取り組みたいという学生が多いという結果には、調号の有無が関係していると考えられよう。練習しようと思った理由（問 4 自由記述）をみると、楽曲 A では「歌うときの歌いやすさを選ぶから」や「A の方が歌いやすく、弾き歌いがし易いと思ったため。」などの歌いやすさに関する回答が多く（20 名）、その他、「弾きやすそうだったから（5 名）」や「左手の難しさが C とあまり変わらないから（3 名）」などの回答がみられた。楽曲



Bでは「調号がないから」や「黒鍵が入ると難しく感じるから」、「シャープを使わないので初心者の私には合っていると思った」などの調号の弾きにくさに関する回答が多く(48名)、その他、「左手が簡単だから(5名)」や「楽譜が見やすいから(3名)」というような回答がみられた。やはり、ピアノ弾き歌いの取り組みへの意欲には調号の有無が重要な要因であることが考えられる。

なお、ピアノ弾き歌いへの取り組みの結果には、入学前のピアノレッスン経験の期間が影響しているという可能性も考えられる。そこで、選択した楽曲ごとに、入学前のピアノレッスン経験期間の分布を算出した。その結果、楽曲Aを選択した学生は、[0～1年未満が58%、1年以上～3年未満が20%、3年以上～6年未満が3%、6年以上が19%]であった(図4)。楽曲Bを選択した学生は、[0～1年未満が57%、1年以上～3年未満が10%、3年以上～6年未満が9%、6年以上が24%]であった(図5)。このことから、入学前のピアノレッスン経験が少ないから楽曲Bを選ぶということや、経験が多いから楽曲Aを選ぶということは必ずしもないということが示された。

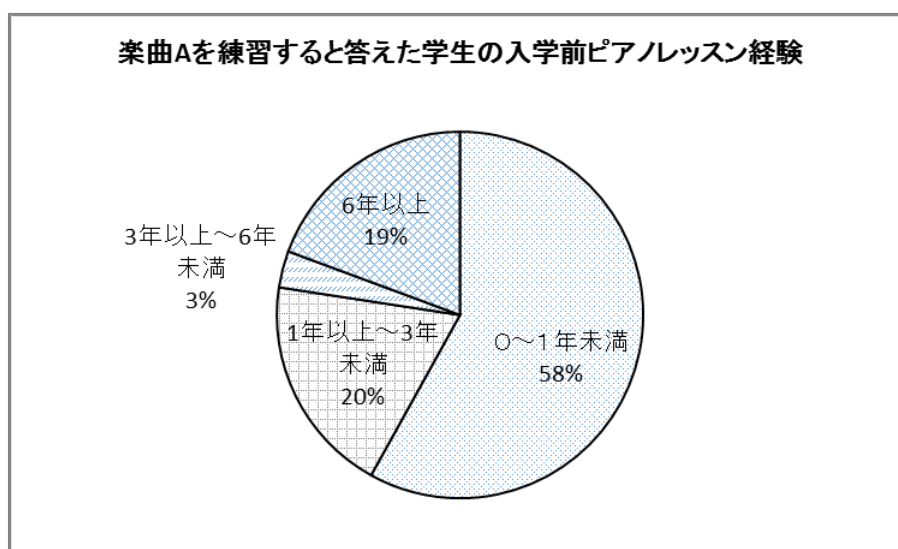


図4. 入学前ピアノレッスン経験の割合(楽曲A)

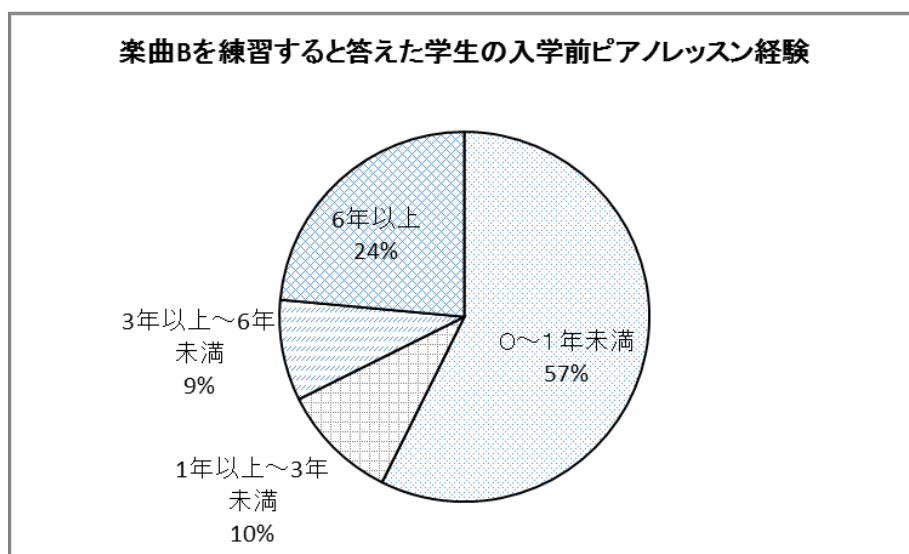


図5. 入学前ピアノレッスン経験の割合(楽曲B)

## まとめ

本論では学生がより多くの「子どもの歌」のレパートリーを持つことに焦点をあて、論じた。まず、本学学生にとっての弾き歌いの難しさの原因を、「I - 1. 歌う音域と学生の胸声発声による声域の相違」、「I - 2. 調号がある曲に苦手意識がある」、「I - 3. 左手でピアノを弾くことが難しい」と仮定した。学生に対する調査の結果、「I - 1.」と「I - 2.」の考えは支持されたといえよう。なお、「I - 3.」についてであるが、「I - 2.」の調査時に左手首を左右に動かさずに同じポジションで弾ける伴奏の映像を視聴してもらったところ、問4の自由記述に「左手の位置が動かないので歌に集中できそう」や「へ音記号が“ド～ソ”だったから初心者でも弾けそう」という意見がみられた。よって、学生がより多くの「子どもの歌」のレパートリーを増やすにあたっては、左手でピアノを弾くことが難しいということについても考慮に入れるべきであろう。

これらのことを踏まえて、保育現場でよく歌われており、弾き歌いの教材でもある、「とけいのうた」の移調および伴奏アレンジをした（付録3）。この譜面の使用音域は、「1点ハ音～2点ハ音」となっている。学生の声域よりやや高めの音域であるが、調号のないハ長調に設定することによって、ピアノ弾き歌いへの取り組みやすさを重視したものである。そしてこの曲は、「器楽I」の今年度前期の弾き歌い試験課題曲の一つであるため、ピアノ初心者用として試用してもらうためにアレンジ譜を配布している。学生の反応を踏まえて、必要に応じて改善をしていきたい。

筆者のこうした試みは、一見すると、音楽の「表現」という観点を考えていないように見えるかもしれない。しかし筆者は、田島（2010）と同様に、学生のピアノ弾き歌いに対する取り組みにくさを軽減することによって意欲の向上を図れるとともに表現力の向上も期待できる、と考えている。学生の表現力の向上のためにも、上記のような取り組みは必要であろう。今後も、保育者養成校で音楽を担当する者として、「子どもの歌」のピアノ弾き歌いへの意欲と自信を持って音楽活動を行える保育者を養成する一助となれるよう、取り組んでいきたい。

## 引用文献・参考文献

- 1) 磯部澄葉(2014),「保育者養成課程におけるピアノ初心者へのレッスン支援—コードネーム・オリズムピックを用いた指導法の提案」,『金城学院大学論集 人文科学編』第10巻第2号, pp.19-31.
- 2) 児嶋輝美・古本奈奈代(2015),「保育士の音楽表現に関する保育の満足度と表現技術等との関連について」,『一般社団法人全国保育士養成協議会 保育士養成研究』, 第33号, pp.81-88.
- 3) 水崎誠(2012),「第2章 子どもと歌う」 吉富功修・三村真弓(編)『改訂2版 幼児の音楽教育法—美しい歌声をめざして—』, ふくろう出版, pp.13-21.
- 4) 田島孝一(2010),「音符を使わない初心者向けピアノ学習法の提案—保育士をめざす音符が読めない学生のために—」,『神戸女学院大学論集』第57巻第2号, pp.123-140.
- 5) 吉富功修・三村真弓(2012),「第1章 幼児の歌唱の実態と指導への提言」 吉富功修・三村真弓(編)『改訂2版 幼児の音楽教育法—美しい歌声をめざして—』, ふくろう出版, pp.3-12.

付録 1

「あそびと音楽Ⅱ」アンケート 〔パターン1〕

1. 「ハロウィン (A)」の歌いやすさについて、当てはまる数字に丸を付けて下さい。

1. とても歌いにくい	2. 歌いにくい	3. やや歌いやすい	4. 歌いやすい	5. とても歌いやすい
-------------	----------	------------	----------	-------------

ハロウィン(A)

ハ ロ ウイン ハ ロ ウイン お ま つ り だ

ジャ ッ ク オー ラ ン タ ン か ざ ろ う よ

2. 「ハロウィン (C)」の歌いやすさについて、当てはまる数字に丸を付けて下さい。

1. とても歌いにくい	2. 歌いにくい	3. やや歌いやすい	4. 歌いやすい	5. とても歌いやすい
-------------	----------	------------	----------	-------------

ハロウィン(C)

ハ ロ ウイン ハ ロ ウイン お ま つ り だ

ジャ ッ ク オー ラ ン タ ン か ざ ろ う よ

3. 「ハロウィン (A)」と「ハロウィン (C)」を歌ってみて、どちらがより歌いやすいと感じましたか？  
どちらかに○を付けてください。

☐ 1 「ハロウィン (A)」

☐ 2 「ハロウィン (C)」

選択した方を、より歌いやすいと思った理由を教えてください。

4. 「ハロウィン (A)」か「ハロウィン (C)」を、ピアノで弾き歌いする場合、どちらを練習しますか？  
どちらかに○を付けてください。

☐ 1 「ハロウィン (A)」

☐ 2 「ハロウィン (C)」

選択した方を、練習しようと思った理由を教えてください。

5. あなたが本学に入学する前の、ピアノレッスン経験の期間について、当てはまるものに○を付けてください。

☐ 0 年～1 年未満

☐ 1 年以上～3 年未満

☐ 3 年以上～6 年未満

☐ 6 年以上

6. 氏名等を記入してください。(記入したくない人は、無記名でも良いです。)

クラス	番号	氏名
-----	----	----

\*このアンケートの集計結果を論文に掲載します(ただし、個人名は載せません)。このアンケート用紙の提出をもって、了承を得たこととさせていただきます。ご協力、ありがとうございました！

付録 2

「あそびと音楽Ⅱ」 アンケート 〔パターン2〕

1. 「ハロウィン (C)」の歌いやすさについて、当てはまる数字に丸を付けて下さい。

1. とても歌いにくい	2. 歌いにくい	3. やや歌いやすい	4. 歌いやすい	5. とても歌いやすい
-------------	----------	------------	----------	-------------

ハロウィン(C)

ハ ロ ウイン ハ ロ ウイン お ま つ り だ

ジャ ッ ク オー ラ ン タ ン か ざ ろ う よ

2. 「ハロウィン (A)」の歌いやすさについて、当てはまる数字に丸を付けて下さい。

1. とても歌いにくい	2. 歌いにくい	3. やや歌いやすい	4. 歌いやすい	5. とても歌いやすい
-------------	----------	------------	----------	-------------

ハロウィン(A)

ハ ロ ウイン ハ ロ ウイン お ま つ り だ

ジャ ッ ク オー ラ ン タ ン か ざ ろ う よ

3. 「ハロウィン (C)」と「ハロウィン (A)」を歌ってみて、どちらがより歌いやすいと感じましたか？  
どちらかに○を付けてください。

☐ 1 「ハロウィン (C)」                      ☐ 2 「ハロウィン (A)」

選択した方を、より歌いやすいと思った理由を教えてください。

4. 「ハロウィン (C)」か「ハロウィン (A)」を、ピアノで弾き歌いする場合、どちらを練習しますか？  
どちらかに○を付けてください。

☐ 1 「ハロウィン (C)」                      ☐ 2 「ハロウィン (A)」

選択した方を、練習しようと思った理由を教えてください。

5. あなたが本学に入学する前の、ピアノレッスン経験の期間について、当てはまるものに○を付けてください。

- ☐ 0 年～1 年未満  
☐ 1 年以上～3 年未満  
☐ 3 年以上～6 年未満  
☐ 6 年以上

6. 氏名等を記入してください。(記入したくない人は、無記名でも良いです。)

クラス	番号	氏名

\*このアンケートの集計結果を論文に掲載します(ただし、個人名は載せません)。このアンケート用紙の提出をもって、了承を得たこととさせていただきます。ご協力、ありがとうございました！



付録 3

\*この曲で使う左手の音と指番号



# とけいのうた (ハ長調)

筒井敬介 作詞  
村上太朗 作曲

Allegretto

